

滋賀県農業の特徴



新保地区（高島市）

● 近江は米どころ

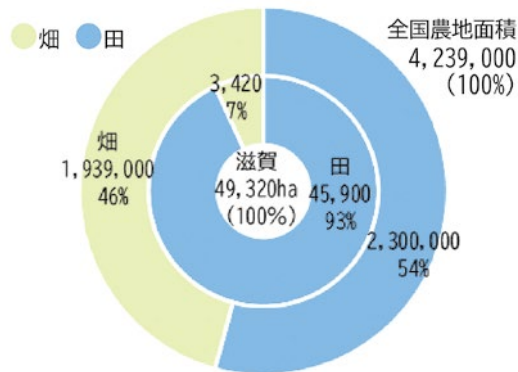
琵琶湖を抱き、四方を鈴鹿や比良などの山々に囲まれた滋賀県は、温かな気候と豊かな土壌に恵まれ、古くから水田開発が進みました。

現在も近江米の産地として水田農業が盛んに行われており、特に農地の水田率は約93%（令和7年）と、全国で2位となっています。

● 生産性の高い農業

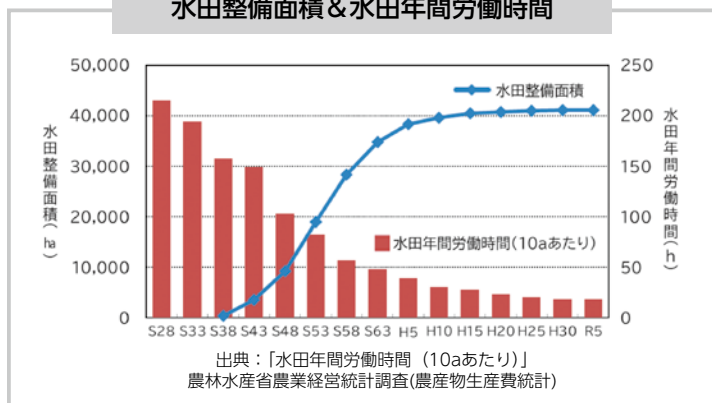
昭和47年から平成8年まで行われた琵琶湖総合開発の期間に、ほ場整備が大きく進展しました。また、担い手への農地の集積や大型農業機械の導入も進み、水田労働時間は大きく短縮され、生産性の高い農業が実現しています。

農地の土地利用構成(ha)

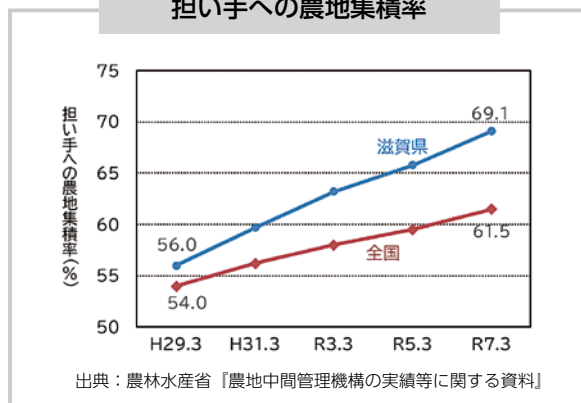


出典：『農林水産統計 耕地面積』
令和7年耕地面積（7月15日現在）（農林水産省）

水田整備面積&水田年間労働時間



担い手への農地集積率



滋賀県農業を支える取組

持続可能な農業のためには、担い手への農地の集積・集約化や、農作業の効率化・生産性の向上に役立つ農業生産基盤の整備を進める必要があります。

滋賀県で現在、特に力を入れている取組を一部紹介します。

◆良好な基盤整備の保全

経営の拡大や多角化を後押しするため、農地の大区画化を進めています。基盤整備を契機に、集落営農の法人化や農地の集積・集約を促進しています。



畦畔除去による大区画化

◆スマート農業の取組

スマート農業とは、ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業のことです。

スマートフォンで行える自動給水バルブの操作や、GPSを活用した自動田植え機の導入などを行い、作業の効率化を進めています。



自動操舵装置付き農業機械の導入

●環境こだわり農産物

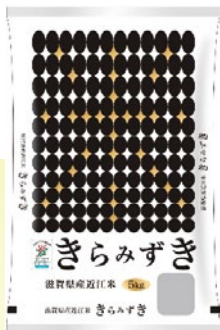
化学合成農薬および化学肥料の使用量を慣行の5割以下に削減するとともに、濁水の流出防止など、琵琶湖をはじめとする環境への負荷を削減する技術で生産された農産物を「環境こだわり農産物」として県が認証しています。環境こだわり米は作付面積の44%を占めています。

●近江のお米

滋賀県では、古くから琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境と調和した米づくりが営まれてきました。農業者は環境保全のためにさまざまな工夫を重ね、通常より手間暇をかけて、琵琶湖にもやさしい農業に取り組み、消費者においしさとともに、安心・安全をお届けするのはもちろん、人々の大切な水資源である琵琶湖も保全しています。ここでは、代表的な品種を2つご紹介します。



環境こだわり農産物
認証マーク



地球温暖化の防止や
生物多様性の保全に貢献
“きらみずき”

「きらみずき」は、滋賀県で育成された中生熟期の新品種です。最大の特長は栽培方法にあり、「オーガニック栽培」または「化学肥料、殺虫・殺菌剤を使用しない栽培」に限定しているため、地球温暖化の防止や生物多様性の保全に貢献しています。こうした取組を県域で実施しているのは全国でも滋賀県だけです。令和7年産からは県内外の学校給食でも提供されています。

今後も、コンセプトである“こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」”による好循環が生まれるよう、「きらみずき」の生産拡大を進めていきます。

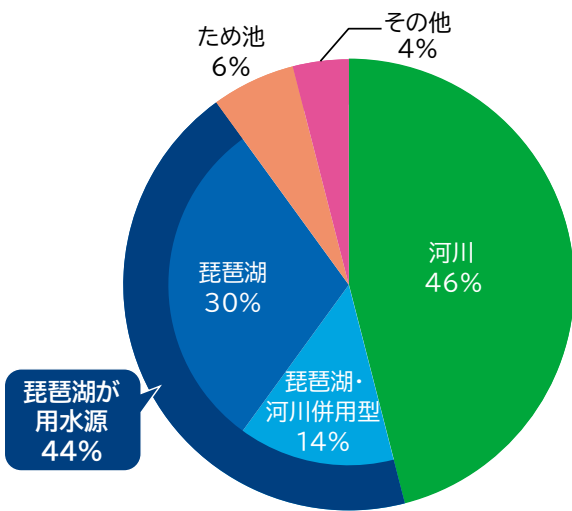


米の食味ランキング
「特A」評価
“みずかがみ”

「みずかがみ」は、滋賀県で育成された早生品種で、全量が環境こだわり米です。滋賀県の水稲作付面積の約1割を占める主力品種となっており、(一財)日本穀物検定協会主催の「米の食味ランキング」においても「特A」評価をいただきました。

今後も、「みずかがみ」の優れた外観品質と良食味を一定の水準以上に保ち、消費者に心から喜んでいただけるよう取組を進めていきます。

琵琶湖が用水源



【滋賀県の用水利用面積割合】

滋賀県の農地の約4割は琵琶湖を用水源としています。通常、河川水で稲作を行うには、水田面積の10～13倍の流域面積が必要とされていますが、滋賀県では全水田面積のおよそ6倍の流域面積しかありません。そこで、さまざまな水源開発が行われ、特に琵琶湖からの揚水によるかんがいを進展させてきました。



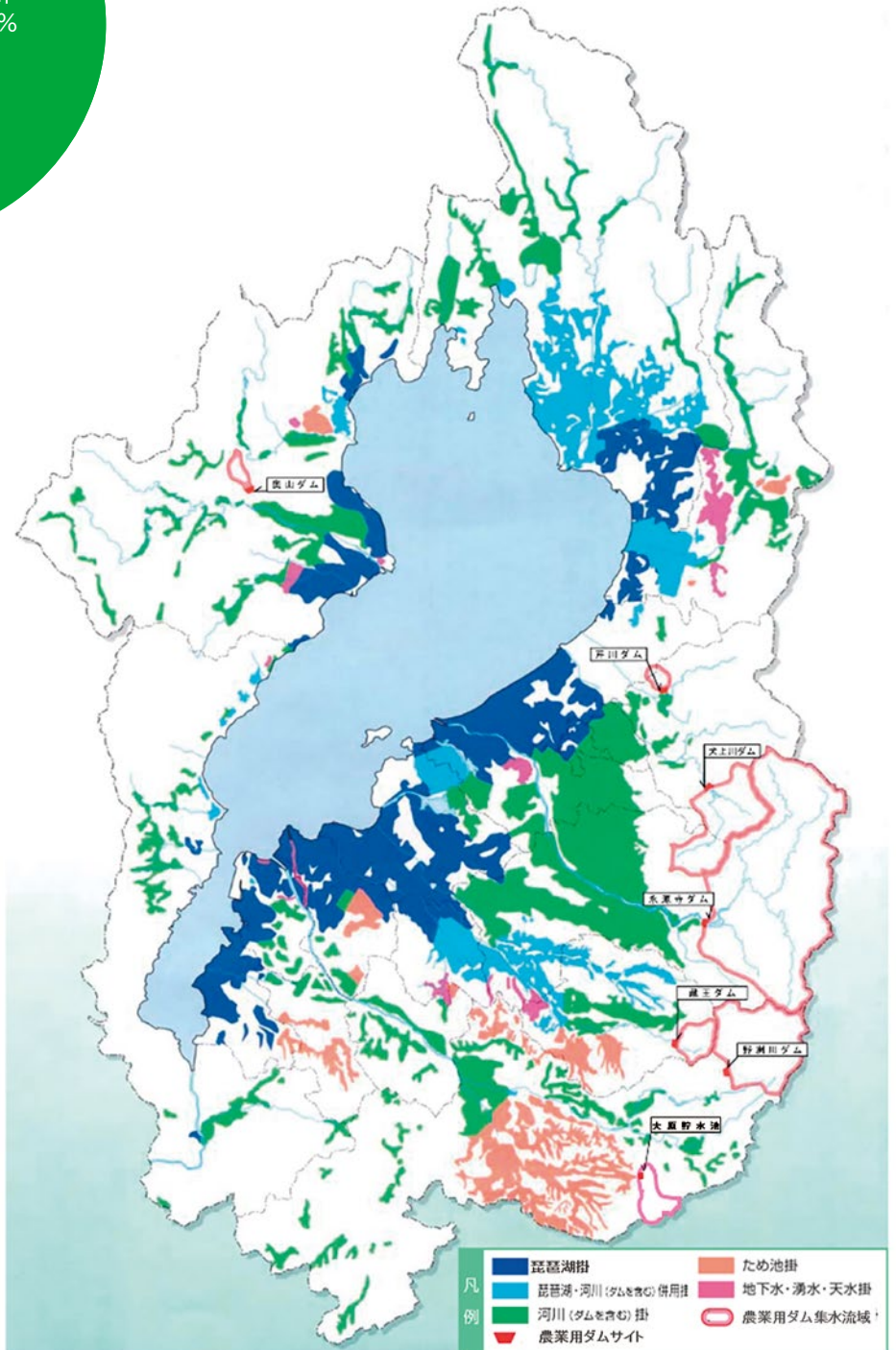
頭首工



揚水機場



ため池



用水源は大きく河川、琵琶湖、ため池に分けることができます。

琵琶湖からの用水は、52機場のポンプ場を使って上流の農地まで送水されています。加えて、河川からの用水は27基の頭首工を主とする取水施設によって水をせき止め、農地へと供給されています。これらの施設により、広範囲の農地が安定的に潤われています。

また、ため池は約1,400箇所あります。その用水利用面積割合は全体の6%ですが、ため池が集中している地域もあり、重要な用水源として活用されています。